

6.中学校の再編計画

中学校については、学校集団で育てる教育環境を理念とする基本方針を尊重し、赤来中学校と頓原中学校の2つの中学校を再編します。2校の再編にあたり、校舎の配置場所の3案「案①頓原中学校を使用」「案②赤来中学校を使用」「案③来島地区に新設」について、「施設」「生徒数」「通学」「コスト」の観点から、各案を比較評価し、校舎の位置を検討しました。

校舎位置の比較検討

【既存中学校の平面図】



【中学校の配置 比較表】

3案を比較して◎…最も条件が良い ○…2番目に条件が良い ▲…最も条件が悪い

比較項目	案① 頓原中学校を使用	案② 赤来中学校を使用	案③ 来島地区に新設	
施設	築年数	○ S55 (1980)	▲ S47 (1972)	◎ 新設
	敷地面積	○ 6,568 m ²	◎ 41,232 m ²	▲ 建設用地確保が必要
	グラウンド面積	◎ 校庭：12,000 m ² (町民グラウンド) 野球場：11,700 m ²	○ 校庭：13,000 m ² 野球場：なし	▲ 建設用地確保が必要
	教室数	○ 普通：5室 (303 m ²) 特別：9室 (940 m ²)	◎ 普通：6室 (283 m ²) 特別：9室 (1,117 m ²)	-
	耐震安全性	○ 旧基準 (診断済) 補強済：校舎、体育館	○ 旧基準 (診断済) 補強済：校舎、体育館	◎ 新基準
生徒数	生徒数 (推計)	○ 頓原中学校 R6：35人 R9：39人 R11：30人	◎ 赤来中学校 R6：64人 R9：41人 R11：39人	-
	生徒減少率 (R6→R11)	○ -14.3%	▲ -39.1%	-
通学	スクールバス利用者数 (R12)	▲ 60人 (現状より50人増)	◎ 34人 (現状より24人増)	○ 47人 (現状より37人増)
	通学時間平均	○ 35分 (最大通学時間45分)	▲ 38分 (最大通学時間55分)	◎ 26分 (最大通学時間45分)
	乗換が想定される生徒数	◎ 2人	▲ 5人	▲ 5人
	遠距離通学生*のスクールバスカバー率 ※学校から半径6km範囲外	◎ 100%	▲ 73.9% (バス対象外の遠距離通学生： 上赤名地区12人)	◎ 100%
	一般混乗バスへの影響	◎ 変更なし	▲ 八神-頓原地区間： 中学校のスクール専用に変更 (ルート変更のため)	▲ 八神-頓原地区間： 中学校のスクール専用に変更 (ルート変更のため)
コスト	施設管理・更新費用 (2020~2070) ※長寿命化では2020年に長寿命化、2040年に大規模改修、2055年に建替するものと想定して算出	◎ 施設管理・更新費： 2,676百万円 ・長寿命化 825百万円 ・大規模改修 385百万円 ・建て替え 1,467百万円	▲ 施設管理・更新費： 3,073百万円 ・長寿命化 978百万円 ・大規模改修 455百万円 ・建て替え 1,640百万円	○ 新設費：1,300~1,400百万円 施設管理・更新費：1,321百万円 ・大規模改修 420百万円 ・長寿命化 901百万円 ※頓原中学校と赤来中学校の施設管理・更新費用の平均を基に算出
	スクールバス購入費・運用費 (10年間)	▲ 314百万円 (1人当たり5.2百万円)	◎ 260百万円 (1人当たり7.6百万円)	○ 303百万円 (1人当たり6.4百万円)
総合評価	◎	○	▲	

校舎位置の比較結果

比較1 施設

**頓原中学校は赤来中学校に比べて校舎が新しく、周辺施設が充実
来島地区の建設用地確保は困難**

敷地面積や教室面積は赤来中学校が広がっていますが、校舎の築年数は頓原中学校が8年程新しい建物です。グラウンド等の屋外施設をみると、頓原中学校では野球場、町民グラウンドなどの屋外施設が隣接しており、部活動などが行いやすい環境があります。

案③来島地区に新設する場合は建設用地確保が必要ですが、適した用地が周辺になく、確保ができない状況です。

比較2 生徒数

令和9年以降には頓原中学校、赤来中学校の生徒数が同程度に

令和6年時点の生徒数は頓原中学校が35人、赤来中学校が64人と大きな差がありますが、赤来中学校では令和8(2026)年から令和9(2027)年にかけて生徒数が大きく減少することが予想され、令和9(2027)年以降には2つの中学校の生徒数は同程度となる見通しです。

比較3 通学

**スクールバス利用者は頓原中学校の場合が最も多くなるものの、
遠距離通学生がすべて利用対象に**

スクールバスの利用者数(令和12年)は案①(頓原中学校を使用)が最も多く、案②(赤来中学校を使用)が最も少なくなる見込みです。一方で、案①の場合は現在スクールバスの利用対象となっていない、上赤名、畑田を含む全ての遠距離通学生(学校から半径6kmの範囲外に居住する生徒)がスクールバスの利用対象とすることが可能となり、町内全域の長距離通学生に必要な支援ができます。最大乗車時間は案②の場合が最も長く、55分程度となっており、案①の場合は45分程度となっています。

また、案②の場合は、現況より通学時間が長くなることから志々地区からの一般混乗便をスクール専用として、運行ルートを変更する必要があり、地域住民への影響が想定されます。

比較4 コスト

**施設管理、更新費用は頓原中学校が最も安価、
スクールバス購入費・運用費は今後の生徒数により変動の可能性あり**

施設管理、更新費用(令和2年から50年間)は、案②(赤来中学校を使用)が最も高くなっています。スクールバス購入費・運用費については、利用者が多い案①(頓原中学校を使用)が最も多く、案②が最も少なくなっています。一人当たりの費用は、利用者が多い案①が最も安価となっています。ただし、今後、頓原中学校と赤来中学校の生徒数は同程度になることが推計されるなど、今後の生徒数により、運用費は増減する可能性があります。

校舎の場所は「案① 頓原中学校」が最有力となりました

- 施設面、生徒数の推移、通学面、コスト面などから総合的に判断して、**令和10年度までに頓原中学校と赤来中学校を再編します。**
- なお、再編にあたっては、**保護者や地域と十分協議を行い、頓原中学校校舎の使用を検討します。**